



MINATO TOKYO

Bulletin

みなと
ユネスコ

MINATO UNESCO ASSOCIATION NEWS & CALENDAR

ISSUED BY/MINATO UNESCO ASSN. 16-3, SHIMBASHI 3-CHOME MINATO-KU TOKYO 105-0004/HIROSHI NAGANO PRES.
発行所/港ユネスコ協会 〒105-0004 東京都港区新橋3-16-3 TEL・FAX 03(3434)2233 発行人/永野博
Mail:info@minatounesco.jp http://minato-unesco.jp

2017年12月1日発行 第150号

目次	
P1 巻頭言：「世界遺産」とは	P6 みなと区民まつり
P2-3 国際理解講演会	P7 関東ブロック・ユネスコ活動研/山本会員受賞
P4 MUA サロン	P8 事務局便り/見上顧問追悼/編集後記
P5 文化体験教室	

「世界遺産」とは

常任理事 小林 敬幸



「世界遺産」とは？・・・旅行で訪ねたくなる魅力の地ということだけなのだろうか？
「1960年代アスワンハイダムの建設時、UNESCOはナイル川流域にあったヌビア遺跡を水没から守るために移築して保存するキャンペーンを張った。この時に“人類共通の遺産”という世界遺産条約の基本的な考え方ができ、1972年『世界遺産条約』の採択へとつながった。」と西村幸夫氏(東京大学大学院教授、国際遺跡記念物会議<イコモス>元副会長)は、この10月のユネスコ運動関東ブロック大会で「平和を目指す世界遺産・未来遺産」と題した基調講演を切りだされた。

なるほどとの思いからその前段階を調べてみた。19世紀半ばに生まれた国際赤十字の「戦争という負の体験で文化遺産の破壊を目の当たりにし、それを禁止した。また傷ついた兵士は人道的見地から敵味方なく救済されるべきである」という思想を「文化遺産の保存」の考え方まで広げることになった。しかし、第二次世界大戦で一部の歴史都市は戦争被害を守るルールが生かされはしたものの、多くの文化遺産が深刻な破壊を受けた。その後1945年11月に「国連教育科学文化機関：UNESCO」が設立された、ということが分かった。

昨年我々港ユネスコ協会(MUA)では、アフガニスタン文化研究所所長・前田耕作氏による「アフガニスタンの世界遺産～バーミヤンの昔と今～」と題した講演会をもった。玄奘三蔵も見た7世紀の「西大仏・東大仏」が2001年の内戦で破壊されてしまった。その後ユネスコとアフガニスタンで文化遺産の保護修復、又そこから流出した文化財を平山郁夫画伯・東京藝術大学学長(当時)の指導のもと大学で修復。2016年末には母国に戻すという、「文化財」を守っていく一連のお話をお聞きし、氏の熱意に心打たれた。

この5月のMUAは、東京初の世界文化遺産 ル・コルビュジエの建築作品「国立西洋美術館」を訪ね、「松方コレクションと西洋美術館」と題して、館の主要なコレクションのお話を伺うことができた。個人的には、この秋に東京藝術大学大学美術館で開催された「シルクロード特別企画展～素心伝心～クローン文化財 失われた刻の再生」を鑑賞し、前田耕作氏を含む多くの方々の労苦の集大成に感動。失われたものの復元、そして劣化を懸念しての再現。その為に今日の科学的技術と芸術的技能を融合しての「クローン文化財」の技術を開発。地球財産を地球レベルで考えて行こうと世界に発信した画期的な美術展だった。

「世界遺産」は、文化遺産、自然遺産、そして複合遺産と3つの種類がある。その中でも「世界文化遺産」は、それを生み出した民族や原所有国、現在の所有国などの個別の組織や団体の所有物であることを超えた“ユニバーサルな価値”を持つものである。「国際社会 international community」といった表現でなく、「世界のすべて」(P.6へ続く)

2017年度 第1回 国際理解講演会

「緊迫する東アジア情勢を語る」

講師：東郷和彦氏

日時：2017年10月16日 18:30～20:30

会場：港区立生涯学習センター305号室

今回は元駐オランダ大使、京都産業大学教授・世界問題研究所所長、静岡県対外関係補佐官の東郷和彦様（当協会理事）を講師に迎えてご講演頂きました。外交官としてのご経験を踏まえた東郷元大使のご講話は興味深い内容で、いつも大好評です。今回は、トランプ政権が誕生したアメリカ、関係が悪化している北朝鮮、世界の中における中国、ロシアについてご講演いただきました。



1. 先ず、各国をみていく中でポイントとなる歴史について時系列に概観されました。

1945年～1989年、中ソ対立から米ソ対立へ変化して冷戦時代は、米ソ核均衡が保たれていました。冷戦終了後はアメリカの一人勝ちの時代を迎えました。しかし、2008年以降、世界は自国第一の時代に入ってきました。ポピュリズム、ナショナリズムを背景に世界政治の骨格が軋み、全体の秩序がみえない状況に進んでいきました。

2008年、アメリカは、リーマンショックを迎えて、アメリカの経済が必ずしも強いわけではない時代を迎えました。

2008年 中国も、今までの「力を蓄える対応」から「自国を主張する方向」へ転換とみられています。

2012年 ロシアでは、プーチン大統領の再登場、日本でも安倍総理大臣の再登場と双方の国の代表の再登場が発生しました。

2014年 「アラブの春」現象のあと、イスラムの ISIS の発生からシリアとイラクの不安定な状況へと続いていきます。

2016年 イギリスの EU 離脱の国民投票

2017年 アメリカは、トランプ大統領の登場を迎えます。

2. 安倍総理大臣は、2012年の再登場の後、外交問題について「これはやらねばならない」という政治的な信念と、「大きな耳」をもって人の話をよく聞き、総理としての判断は柔軟性をもってするという組み合わせをやってきました。それから解決すべき課題が非常に難しいので、いっぺんにそれを片付けるのではなく、一つ一つ順番に解決する戦略性をもっていました。

その結果、尖閣問題で激震が走っている中国とは「抑止と対話」を整え、米国との関係で重大な不均衡を生じていた安保関係では憲法9条の解釈改正を行い、歴史認識問題では2015年8月の安倍談話で村山談話を継続させ、これをうけて15年12月には韓国との慰安婦問題を解決させ、2016年12月にはプーチン大統領を山口に迎えて平和条約交渉に新たな道筋をつけるなど「積極的平和主義」の課題の下、5年間、外交・防衛・安全保障における成果を徐々にあげてきました。

しかし、2017年の春に入り、内政上の困難から一時政権は危機状況に陥りましたが、10月の選挙で大勝し、今、北朝鮮・ロシア・中国という三つの課題に取り組んでいます。どの問題にも、アメリカの影が大きくさしているわけです。

3. 北朝鮮ですが、現在、トランプ大統領と金正恩との関係が厳しい状況にあります。根本的なこととして外交においては全ての外交手段を使うべきであることから、今後も両国間の外交努力を期待したいと思います。

北朝鮮については、戦後、韓国より経済状況は良かったです。それは日本が引き揚げた時、残した工業

を金日成が引継ぎ、産業が残った形となったからです。韓国には農村が残りました。そこで 1951 年、金日成は南に進出しようと戦争に踏み切りましたが、最後は 38 度線に戻り、停戦合意に至りました。1953 年、スターリンが逝去し、金日成は中国およびソ連と条約を結びました。

1994 年、金日成の逝去後、金正日は 3 年間の服喪を経て、後を引き継ぎました。金正日政権下の事件として、韓国大統領を襲ったラングーン・テロ事件、イラクにおける飛行機襲撃事件を挙げることができます。金正日の後、金正恩が政権を引継ぎ、先軍政治を 3 代で固めました。金正恩は、北朝鮮の金王朝を守る為、核兵器を選択しました。

北朝鮮と台湾を比較すると、2 代目の対応に相違があります。台湾についても振り返ってみました。1949 年、台湾に 1 0 0 万人の中国人と共に蒋介石がやってきて戒厳令が敷かれました。しかし、蒋介石の息子の蔣経国は、自分の政権の最後に、次の 2 点を実施しました。

「戒厳令解除」と「国民党とは異なる党の設立許可」です。なんとそれは、独立を目的とした「民主進歩党」のを発足でした。蔣経国の後、李登輝が代表となり、民主化とその結果としての台湾化を進めました。

外交の鉄則は、相手のことを知っていること。相手のことを知るということは、歴史的発展を知ることと人とのネットワークが大切だと思います。

4. ロシアは 2017 年になってからの動きが遅くなったことが気になります。国際情勢も、両国の経済協力も難しい情勢下にあるので、両首脳がよほどの指導力を発揮して部下の官僚群を動かしていかないと失速する危険もあるでしょう。



5. 2017 年、中国では習近平の権力掌握が進み、「一帯一路」のユーラシア新共同体が進められています。「一帯一路」はユーラシアの新たな共同体を目指すもので、政治・軍事・経済を含むものです。これから始まる第 19 回の中国共産党大会で、習近平がどのくらいの新しい政策を打ち出すが大きな注目点です。

以上の講演から、現在、世界を取り巻く厳しい状況を理解することができました。我々の普段の生活の中で危機意識を持つことは少ないですが、幅広い視野で現状を捉えることが大切だと思います。今回ご参加された皆様は、次回の東郷講師による講演を心待ちにされていることと思います。ご参加が叶わなかった方も次回の講演へぜひお越し下さい。

最後に東郷講師のご著書を紹介させていただきます。東郷和彦他編著『日本発の「世界」思想 哲学・公共・外交』（2017 年 藤原書店）

（国際学術文化委員会 副委員長 兼田徳子）

MUAサロン
理事の長門芳子さんが語る
Global Thinking, Local Action
新しい地球市民活動の可能性～主婦集団の挑戦

日時：10月17日（火）午後6時～8時
場所：MUA事務局

今回は長門さんから上記のテーマの下に、「いっくら国際文化交流会」のお話を伺いました。お話の中で何度も草創期1981年10月「港ユネスコ協会」で常任理事・婦人活動委員長として多くの事業を企画実施の経験が血となり肉となっている」と仰られていた。日本を代表する各界の著名な役員各位との出会いが貴重な財産となり、直接ご指導頂いたこと。その時にご縁のあった官公庁、港区、大学、ユネスコの仲間に教えられ刺激を受けたことに深く感謝し、それをばねに皆さんへ行動でお返しをしてきた。「一主婦でしかなかった私が今日あるのも皆さまのお蔭」と何度も繰り返されていた。人のつながりを大切にされ、エネルギーに活動されてこられたことを強く感じた2時間でした。



長門さんが主宰されている「いっくら国際文化交流会」は、三輪公忠 MUA 名誉会長が名付け親で英語名：Inter-Cultural Community Life Association の頭文字 ICCLA を平仮名表記で表現した「いっくら」によるもの。長門さんはこの「いっくら」にすべてを託して、「ユネスコ精神」を長門イズムとして世界に向けて力一杯に広げてこられたことと理解し、あらためて感動しました。

主な経歴は、ご主人さまの転勤に伴い1975年から港区にお住まいになられ、ご子息の高校のPTA役員、港区教育委員会主催婦人学級、成人大学など数多くの講座等を受講され、その経験を生かし1981年からは、港ユネスコ協会設立発起人・設立実行委員、常任理事・婦人活動委員長、港ユネスコ協会創立15周年記念誌編集長などの要職をこなされ、そこで得たノウハウ・人脈をフル稼働して1983年には宇都宮に「国際NGO・いっくら」を創立。東京と宇都宮を往復しながら、港ユネスコ協会の事業に専念。その間、休眠状態の「宇都宮ユネスコ協会」を「いっくら」の勢いを借りて再生、事務局長・会長として盛り上げた。1993・2001年度に外務省招聘研修生としてお世話をした元モンゴル研修生が「ウランバートルいっくら」を創立。2015年9月14日、モンゴル国最高勲章「北極星・アルタンガダス勲章」受賞。など。特に、2011年から2016年にかけては、港ユネスコ協会の「UNESCO ユースフォーラム in みなと」に留学生を派遣協力6回と回を重ねた。宇都宮・作新学院・宇都宮共和大学の留学生とそれぞれの大学から「日本留学中の貴重な体験をした」と感謝されている。

港ユネスコ協会としても「留学生」そして「ユース」との交流を深めるフォーラムを開催できたことは長門さんのお力のお蔭として感謝すること大である。又、私自身としては、2014年3月のMUA主催「モンゴル国大使館」訪問時にご挨拶以来、多くのご指導を頂いている。これからも健康第一にお元気でのご活躍を祈っております。



（常任理事・会員開発委員会委員長 小林敬幸）

文化体験教室： 第2回 日本の民謡と民話 熊本

熊本の民話（方言で）を聞いて・おてもやんの踊り体験

☆熊本城災害復旧支援事業☆

日時: 2017 年 10 月 7 日（土）13 時 30 分～16 時 00 分

会場: 港区立生涯学習センター101 号室

参加者: 42 名（講師、スタッフを含む）

講師：藤間 豊大郎さん

- 内容：1. 民話を聞く「阿蘇の根子岳にまつわる猫伝説」
語り 松本尚子さん（フリーアナウンサー・ナレーター：右写真）
2. 講師によるデモンストレーション
「おてもやん」の踊り・・・藤間 豊大郎さん（下の写真中央）



講師プロフィール：

昭和 38 年初代藤間勘太女（祖母）に師事

昭和 58 年二代目藤間豊大郎を襲名

昭和 61 年文部大臣奨励賞受賞

（社）日本舞踊協会東京支部 中央ブロック熊本県日本舞踊協会常任理事

NHK 文化センター日本舞踊講師

海外での公演実績：アメリカ、中国、フランス、スペイン、オーストリア、デンマーク、韓国 等



参加者からの感想：

- ①楽しかったです。踊りは、意外とハードで良い運動になりました。
- ②おてもやんの踊りをやりたくなりました。
- ③和気あいあいで良い感じでした。
- ④短かったですが、熊本について知る機会がないので面白かったです。
- ⑤ほどよいざわつきのせいで、気張りがなく楽しめる感じが良かったです。

担当委員会からひとこと：

2016 年 4 月、熊本県を地震が襲い、熊本城は壊滅的とも言える被害を受けました。復旧・復興には多額の費用がかかる見通しです。2017 年 4 月現在の見通しでは、2019 年春、天守閣の復旧が部分的に完成すると見込まれています。熊本城の天守閣からは、阿蘇山（2014 年 9 月 23 日、ユネスコ・ジオパークに認定）が遠くに望めます。1 日も早い熊本の復旧を願って、参加者の皆さんに「熊本城災害復旧支援金」へのご協力をお願いしたところ、10,500 円のご寄付を頂きました。10 月 17 日、熊本県東京事務所にこの寄付金を届けたことをご報告致します（右写真）。なお、開催にあたり、熊本県人会の守田事務局長様、山口理事様に大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。



（副会長・文化体験教室委員会担当 平方一代）

第36回みなと区民まつりへの参加

日時：2017年10月7日(土) (午前11時～午後5時) ～8日(日) (午前10時～午後4時)

場所：港区立芝公園 「みんなの広場」 第5ブロック30番

内容：港ユネスコ協会の幅広い活動の紹介およびミニ・バザー



土曜日は朝方の雨もあがり、ギンナンの実の匂いがテントにまで届いていました。テント内に各委員会のパネルを掛け、催し物のチラシ、入会案内パンフなどを来訪者が自由にとれる位置に置いて、呼びかけを行いました。テントの中まで入ってきてパネルを見る方は少なかったですが、第一回国際理解講演会(講師 東郷和彦氏)に興味をもち、その場で参加申込みをする方もいました。初日には武井区長が会場を巡回して、区民まつりを盛り上げてくださいました。

今回のミニ・バザーは品数が昨年より少ないように思いましたが、ご提供くださった会員の皆様のおかげで、結果としては昨年を上回る売上となりました。経費を差し引いた額を「東日本大震災就学支援奨学金」へ寄付いたします。

実は土曜日には、並行して文化体験教室委員会主催の「熊本おてもやん踊り体験」が実施された関係で、双方を行き来した会員もおられました。永野会長には車で物品運搬で、また会員の皆様には会場でのご協力で、大変お世話になり感謝申し上げます。



(みなと区民まつり委員会 副委員長 磯部豊子)

(P.1 よりつづく)世界遺産とは

の国民 all people of the world』という考え方から成り立つ地球規模の思想であるということを理解できた。

日本ユネスコ協会連盟の活動内容は、ユネスコ憲章に則り「平和」を希求し、発展途上国への教育支援としての「世界寺子屋運動」、世界遺産を守る「世界遺産活動」、日本の文化・自然を守る「未来遺産運動」を柱としているが、その背景には2016年から2030年にわたる「持続可能な開発目標」(SDGs)の追求あつての活動である。

私自身ユネスコ活動の日は浅いが、多岐にわたる「ユネスコの活動」の中、「平和」を考える道筋として同好の仲間を誘い、「有形・無形の世界遺産」の一つひとつを身近なところから触れて、その文化と歴史を理解していくことが大切だと考える今日この頃である。

2017 年度関東ブロック・ユネスコ活動研究会 in 市川
民間ユネスコ運動 70 周年記念の関東地区研究会
テーマ：Peace for Tomorrow 広げよう平和の心
～ 各協会の活性化と会員増をめざし、共に語ろう『平和活動』 ～

日時：10 月 14 日（土） & 15 日（日）

場所：市川・山崎製パン総合クリエイションセンター

今回は市川を会場とし、UNESCO 平和芸術家・二村英仁さんのヴァイオリン演奏に始まり、主催者側から吉崎晴子会長の挨拶そして来賓のあいさつが続いた。基調講演は西村幸夫氏（東京大学教授）による「平和をめざす世界遺産・未来遺産」であった（右写真）。



掲題の研究会は ①ユネスコ・スクール、②情報発信・広報・会員増、③キャリア・デザインとユネスコ、④世界遺産・未来遺産、⑤平和活動・寺子屋運動 と 5 つの分科会に別れて開催された。その後、各分科会からまとめの報告があり、70 年に亘る民間ユネスコ活動の節目の会合となった。最後は来年度の開催地の皆さんからのエール「茨城で会いましょう！！」で結ばれた。

私は、上記④のうち「未来遺産『雑司ヶ谷がやがや』プロジェクト」をテーマとする、としまユネスコ協会・城所信英さんの分科会に参加した。2014 年度に、神楽坂、谷中に次ぐ東京都内で 3 番目の「未来遺産」として認定される迄の経緯とその後の展開を身近な話として聞くことができた。いかに地元に密着して活動してこられたかが分かり、改めての現地探訪を思った。

2 日目は、日本ユネスコ協会連盟主催の「パワーアップ・ワークショップ」が開催され、ユネスコ活動に必要な情報・ノウハウを学ぶ参加型ワークショップが開かれた。

（常任理事 小林 敬幸）

山本俊介会員の油絵が第 53 回蒼樹展で受賞

去る 10 月 24 日～30 日、東京都美術館で開催された第 53 回蒼樹展において、当協会の山本俊介会員が出品された油絵「アドリア海の風」（写真）が文部科学大臣賞の表彰を受けました。展示期間中にこの 100 号油絵の大画面をじかに拝見したものとして、会員仲間のこの快挙をご報告できることは大きな喜びです。今後、益々のご活躍をお祈りいたします。山本会員からは下記のコメントを頂戴しました。



「蒼樹会への出品は、20 余年になります。2009 年に東京都議会議長賞、2014 年に毎日新聞社賞を受賞している私としては、今回の文部科学大臣賞は最高の受賞であり、2017 年は記憶に残る年となりました。建築の設計という社会との関わりの多い仕事をして来た私の絵の主題は、理解しやすい人間が描かれている具象画です。高い城壁の上からアドリア海の風を感じながら美しい街ドブロヴニクを描いたのが評価され、受賞に結びついたと思います」

（副会長 平方一代）

事務局便り

【ようこそ 新入会員】 個人会員：古寺 公彦さん 原田 紀子さん

【今後の事業予定】（詳細は別途、チラシ、ホームページ、ツイッターでご案内します）

- ☆1月24日（水）～4月4日（水） 初級英会話講座、毎週水曜日、18:30～20:30、冬期コース全10回
会場：港区立麻布区民センター
初中級英語講座、毎週水曜日、18:30～20:30、冬期コース全10回
会場：港区立生涯学習センター
- ☆1月11日（木）18:30～20:30 第2回国際理解講演会 「水俣病に学ぶ『人間として大切なこと』 - 切り拓いた命ぞわめく世界」
講師：栗原 彬氏
会場：港区立生涯学習センター・305号室
- ☆1月20日（土）13:30～16:00 日本語スピーチコンテスト
会場：港区立生涯学習センター・101号室
- ☆1月27日（土）13:30～16:00 茶の湯体験教室
講師：松村 宗幸氏（裏千家）
会場：港区立生涯学習センター・203号室 参加費：500円
- ☆2月9日（金）15:00～16:30 ディプロマッツ・レクチャー（対象：駐日大使及び大使館員のみ）
講師：林 健太郎氏（国立保健医療科学院 健康危機管理研究部 客員研究員）
会場：国際文化会館・樺山松本ルーム
- ☆2月24日（土）12:00～15:30 世界の料理教室（ルーマニアの家庭料理）
会場：港区立男女平等参画センター・リーブラ・ホール（みなとパーク 芝浦・1階）
- ☆2月27日（火）18:30～20:30 第3回国際理解講演会 「三途の川のわたり方（仮題）」
講師：中島 宏昭氏
会場：港区立生涯学習センター・305号室

【ご協力をお願い】 常時受け付け中です。事務局までお願いいたします。

☆日ユ協連・東日本大震災復興育英基金

【訃報・追悼】 見上良也顧問が去る8月24日、82歳で永眠されました。（学校法人 東京芸術学園音響芸術専門学校 理事長）1981年の港ユネスコ協会の誕生時から理事として、そして1987年～1991年間は副会長としてご活躍されました。港区も区民も「国際化」の言葉に試行錯誤の活動を続けていた初期、見上氏の幅広い視野、知識、実行力、情熱に大きく負っていたといっても言い過ぎではないと思います。1992年、自治省からの呼びかけによって港区国際協会の設立が必要となり、港区長からの要請によって、見上副会長が理事長に就かれました。その後、軸足は港区国際協会の方に移ったとは言え、港ユネスコ協会顧問としてあたたかく目を配ってくださっていました。（相談役・理事 高井光子）

編集後記

- ◆気がつけばもう師走。今年は盛夏から秋を飛ばして冬が来た感じが強いが、小春日和の日も多かったような。変わった気候が定着しつつあるのか気にかかる。（須田康司）
- ◆一年が早いなあ、と感じる今日この頃。時間の感覚は年齢に反比例するらしい。確かに、50歳と10歳では1年の感覚は1/50年と1/10年だものね。年の瀬になると毎年同じことを考える。（小林真弓）
- ◆例えば、Aの利益は必然的にBのマイナスになるというゼロサム的思考というよりも、Aの利益は他のBやCにとってもプラスになっていくというプラスサムの思考が求められているのではないかと考える。（前田幹博）
- ◆先の世界大戦中、ナチスによってドーバー海峡に面するフランス北端のダンケルクまで追い詰められた英仏連合軍40万の兵士の救出劇を描いた映画を観た。戦争の悲惨さ、愛国心等、色いろ考えさせられた。（棚橋征一）

港ユネスコ協会事務局 （火～金 10:30～17:00）

〒105-0004 東京都港区新橋 3-16-3

TEL03(3434)2300 TEL・FAX03(3434)2233

Eメール：info@minatounesco.jp

ウェブサイト：<http://minato-unesco.jp>